

# 県医師会の動き

副会長 吉本 正博

10 月中旬からめっきりと秋らしくなりました。今年は例年以上にセイタカアワダチソウの花が目立つように思います。セイタカアワダチソウは北アメリカ原産の帰化植物（外来種）で、第 2 次世界大戦後からその存在が目立ち始めたとのことですが、以前は日当たりの良い空き地を選んで、すごい勢いで繁殖していました。平成に入り、やや勢いが衰えていたとのことですが、また勢いを盛り返してきたのでしょうか。日本ではあまり印象のよくないこの花は、ケンタッキー州とネブラスカ州では州の花、サウスカロライナ州では州の野生の花、デラウェア州ではハーブとして認定されているそうです。

9 月 15 日に厚労省が発表した平成 28 年度の概算医療費の動向によると、医療費の総額は 41.3 兆円で前年度から約 0.2 兆円減少したとのこと。C 型肝炎治療薬などの抗ウイルス剤の薬剤料の減少が主な理由だと説明されています。確かに抗ウイルス剤の薬剤料は 1,432 億円減少していますが、28 年度の診療報酬改定が 0.84% のマイナスだったことも、14 年ぶりの医療費減少につながったのは間違いありません。特に医科入院外が 0.4% 減（診療所に限ると 0.9% 減）となったことが影響したことは疑いの余地がありません。来年の改定では、ぜひプラス改定を期待したいと思います。

9 月 8 日（金）に開催された山口県国民健康保険運営協議会に沖中芳彦 常任理事が出席しました。平成 30 年度から都道府県が国民健康保険の財政運営の責任を担うことになっています。現在、市町別の一人あたりの保険料は、最高の周南市（107,086 円）と最低の上関町（70,782 円）と

で約 1.5 倍の差があります。しかし、被保険者の保険料の急激な増加を緩和するために、各市町の医療水準、所得水準、年齢構成等を考慮し、各市町の負担能力に応じた保険水準となるよう算定することと、当面は保険料の統一は見合わせられるものの、将来的には統一を目指すとのこととのことです。規模の拡大により財政基盤は安定すると思われませんが、今後の事務の効率化、保険料収納率の向上が図れるかどうかは課題となるでしょう。

9 月 9 日（土）に開催した山口県医師会産業医研修会には 130 名の受講者がありました。私も受講しなかったのですが、同日と翌日の 2 日間福岡市で開催された認知症サポート医養成研修会に参加することになったので、受講できず残念でした。

さて、その認知症サポート医養成研修会は、今年度は全国各地で 6 回の開催が予定されており、福岡市での開催はその第 2 回で、2 日目の最後にグループワークがありました。私のグループの多くは九州からの参加でしたが、岡山県津山市と愛媛県宇和島市からの参加もありました。診療報酬の中に認知症ケア加算が組み込まれたこともあり、最近では病院から郡市医師会を経由して本会に対して、医師の受講推薦を依頼してくるケースが増えています。

9 月 13 日（水）に開催された社会保険診療報酬支払基金山口支部幹事会に河村康明 会長が出席しています。福祉医療助成事業の受託を目指して関係団体との打合会を開催する予定が報告されたとのこと。現在は社保の福祉医療助成成分についても山口県国民健康保険連合会が受託してい

ます。支払基金で受託ということになると、レセプト請求の簡易化が図られ、医療機関にとってもメリットがあると思われます。

9月14日(木)には**山口県医師会地域医療計画委員会**を開催しました。平成29年度の地域医療介護総合確保基金(医療分)について及び第7次山口県保健医療計画の策定について、県医療政策課から説明が行われました。基金の配分がヒトからモノに重点が置かれる傾向がますます強くなり、来年度以降、医師会立看護学校への補助金確保が難しくなってくる可能性が指摘されており、今まで以上に国に対して強く要請していく必要があると思われます。

9月14日(木)には山口地方合同庁舎で**山口県地域両立支援推進チーム第1回会議**が開催され、本会からは藤本俊文 常任理事が出席しています。病気を抱えた人が職場で働き続けられる環境を整えるための検討を行う会議で、委員の中にはキャリアコンサルタントの方もいます。なお、藤本常任理事の説明によると、キャリアコンサルタントは平成28年4月から国家資格となったとのことでした。

**山口県専門医制度協議会**が9月14日(木)に山口グランドホテルで開催されました。地域の医師偏在が助長されないかなどをチェックし、必要があれば改善を行っていく仕組みをより強固なものとするために、昨年設置された山口県専門医制度連絡会が協議会と名称変更されるとともに、構成メンバーも一部変更になっています。本会からは委員として加藤智栄 常任理事が、オブザーバーとして山下哲男 理事が出席しています。

9月19日(火)に日医会館で開催された**第2回都道府県医師会長協議会**において、河村会長が「次期診療報酬改定での『遠隔診療』に対する拙速な評価の導入は阻止すべき」と題して質問を行っています。詳細については『日医ニュース』No.1346をご参照ください。

9月21日(木)に**平成29年度第2回花粉情報委員会**を開催しました。測定協力者の定年退職に伴い、1測定機関から来年以降の測定を中止したいとの申し入れがあり、測定機関数は20か所となります。測定機関の存在しない地域については、今後新たな測定機関を探していく必要があると考えています。

9月23日(土)、24日(日)の2日間にわたって**山口県緩和ケア医師研修会**を開催し、受講者は18名でした。既受講者が多くなったこと、がん拠点病院でも開催されることとなったため、年々受講者数は減少傾向にあります。e-ラーニングによる研修も可能になるようなので、来年以降はe-ラーニングによる座学と、1日のワークショップで研修が終了するよう検討を行うことになっています。

9月30日(土)と10月1日(日)の2日間にわたりホテルクレメント徳島で**中国四国医師会連合総会**が開催され、1日目は**常任理事会と分科会**が開催されました。分科会は3つに分かれて、それぞれ医療保険(診療報酬、地域医療構想、基金(医療分)、労災・自賠責保険含む)、介護保険(介護報酬、地域包括ケア、基金(介護分)、在宅医療、認知症関連)、地域医療(感染症、救急災害(遺体検案含む)、勤務医、環境、看護師対策、生涯教育、医療安全、医療廃棄物、産業医、スポーツ医、母子保健等)について各県提出の議題と、日医への提言について協議を行いました。2日目は総会の後、横倉義武 日医会長による特別講演「日本医師会の医療政策」と、大南信也 特定非営利活動法人グリーンバレー理事長による特別講演「神山プロジェクト～創造的過疎から考える地域創生～」が行われました。総会では山口県が提出した要望「医療事故調査支援における中央と支部の連携(情報のフィードバック)について」を、中国四国医師会連合から日医に提出することが承認され、齋藤義郎 委員長(徳島県医師会長)から横倉日医会長に要望書が手渡されました。連合総会の詳細については本号の記事をご覧ください。

10月2日(月)に開催された「医療事故調査制度『管理者・実務者セミナー』」に、本会からは林 弘人 専務理事と中村 洋 理事が参加しました。医療事故報告における判断についての演習等が行われています。なお、平成 27 年 10 月から 28 年 12 月までの医療事故報告数は全国で合計 487 件であったとのこと。大都市を有する東京都周辺、愛知県、大阪府、兵庫県、福岡県が発生件数が多いようです。

「県民の健康と医療を考える会」主催の県民公開講座「超高齢社会をどう生きる！～笑う門には福来たる～」が 10 月 15 日に山口県 JA ビルで開催されました。あいにくの雨模様でしたが 160 名の参加がありました。最初に、春雨や落雷師匠こと安部正之 先生による江戸古典落語「半分垢」と健康講話「笑って健康 “笑いと免疫力そして・・・健康”」、その後、山口県が誇るスーパーアスリート 長岡三重子さんの「私は 103 歳、世界最高齢の現役スイマー～何歳になっても元気ハツラツ～」を、ビデオとご長男の宏行さんから、三重子さんが水泳に挑戦するに至った経緯や日々の生活習慣等についての紹介がなされました。会場は終始笑い声にあふれ、皆さん笑顔で会場を後にしていました。

何となく優しく丸みのあるクラリネットの音

が好きだというのは私だけではないと思います。クラリネットがオーケストラの正式なメンバーになったのはモーツァルトの時代ということなので、歴史的には新しい楽器ということになります。クラリネットの名曲というと、モーツァルトのクラリネット協奏曲イ長調 K.622 とクラリネット五重奏曲 イ長調 K.581、そしてブラームスのクラリネット五重奏曲 ロ短調 作品 115 などが挙げられます。モーツァルトとブラームスのクラリネット五重奏曲は 1 枚の CD に同時収録されることが多いようです。モーツァルトのクラリネット五重奏曲はモーツァルトの死の 2 年前に、クラリネットの名手にしてフリーメーソンの盟友アントン・シュタードラーのために書かれています。音楽評論家の吉田秀和氏は「モーツァルトの五重奏曲を想うと、『神のようなモーツァルト』という言葉が、つい口元まで出かかってしまう。何という生き生きした動きと深い静けさとの不思議な結びつきが、ここにはあることだろうか。動いているけれども静かであり、静穏のなかに無限の細やかな動きが展開されている。」と表していますが、まさにその通りだと思います。優美、典雅、気品、光、影、憂い、優しさ、愛をすべて備えた天上の音楽としか表現しようがありません。ブラームスのクラリネット五重奏曲も、彼の晩年の作品ですが、こちらは晩秋の憂愁と諦念の趣きで、やはり不朽の名作といえると思います。

### 死体検案数掲載について

| 山口県警察管内発生 of 死体検案数 |    |    |    |     |     |    |     |     |
|--------------------|----|----|----|-----|-----|----|-----|-----|
|                    | 自殺 | 病死 | 他殺 | 他過失 | 自過失 | 災害 | その他 | 合計  |
| Sep-17             | 25 | 80 | 0  | 0   | 6   | 0  | 3   | 114 |

死体検案数と死亡種別 (平成 29 年 9 月分)

